

香葉



1982

NO.11

目 次

「釜利谷に新校地着工」	1
「退職にあたって」	2
「昭和30年代の回想」	3
「イスラエルを訪ねて」	5
覚え書（十一）——女専・短大小史	7
展 望	10
コーヨースポットライト	14
香 報 室	16
総会のお知らせ	20
母校ニュース	21
クラス会報告	22
昭和56年度総会報告	23
合同々窓会報告	24
賛助金をご寄付下さった方へのお礼とお願い	25
編集後記	26

表 紙……………関 頼武

カ ッ ト……………青木千恵子





完成予想図

釜利谷に新校地着工

学長 林 淳 三

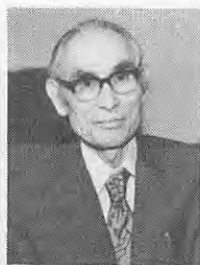
私どもの学校は長らく専用キャンパスが定まらなかつた。それが大学紛争を契機にしてハンソン山跡地があたえられ、女子短大校舎が建築された。しかし、その校地だけではグランドが造れず、また、文部省の短大設置基準校地面積に不足していた。

そこで金沢区釜利谷町の山林を大学と共同で開発し、総合運動場を造成することになった。新校地は釜利谷校地と命名され、約十七万平方メートルあるが、緑地として横浜市に帰属する部分を除くと、運動場になるのは約十三万六千八百平方メートルである。本学はそのうちの四分の一の三三、一四一平方メートルを使用する。

平坦地とする造成工事は五十五年十二月よりフジタ工業（株）によって行われていて、五十八年三月にでき上る。その後は両校別々に体育施設の工事が進められる。本学では三、四年かけ、多目的運動場、テニスコート、バレーコート、弓道場などを建設し、体育授業やクラブ活動に利用される筈である。

退職にあたって——随想

柴 三九男



「本なんか読まなくてもよいからただだけはだいいじにしないよ」とM姉の真実なことばであった。キリスト者の祈こそ神が保証したまう。しかし、中教審の飯島宗一委員（現元弘島市長）の「生涯教育」論（『式字』）（リズトキ）

最近号）から語ろう。この考え方はもとシカゴ大が提唱、生涯学習とい、ユネスコでも課題にし日本・中教審の問題となつた。飯島教授は「生涯教育」では最近の研究成果こそ新に生かすべきをいい、ことに「生命科学」に意を用うべきをいいたい。生命の本質・遺伝子などいうまでもないが、これは身近にガンとも関連が深い。日本ではアメリカにならって肺・腸ガンが増え、管理職に心臓病が多くなる。病氣と自然、生活との関連を新にし、多節制ある日常生活を学びたい。ガンの原因と喫煙の関係は知っていると息子たちはいう。黄緑野菜を食べるべきを知っている。しかし、実行するためにも、問題の所在を知ることが解決の緒であるのを学びたい。実行せねば意味がない。最近新橋で卒業生との歓談を感謝したが、肝臓病の身近な話をし、飲酒について語ったが、いま新たな事例がそこにでて心痛む。祈りたいのは「神の言」に従つた生活である。「修道院」（書近所）の著者今野国雄教授（現東京学芸大）は左右に偏せず、中正の実証的史観での力作、キリスト教の正しい姿の中心点を深く学ぶことが

でき興深い。いま「心の教育」が高唱される時、「生涯教育」での最も重要な一点は宗教への関心である。今野教授がその住む鎌倉の禪寺と修道院とを併せ述べた「はしがき」は師故上原専録先生に及び筆者もその一面を尊敬して感銘が深かった。一読を願いたい。最近現代世界と異状気象について語ったが、WMO世界気象機構では、エネルギー消費の増大によるCO₂の増加によるというので、緑化計画も新出発している。それにはまず資源消費の節約、戦争軍備の防止が急務である。世界平和の課題にも宗教への関心が鍵である。アメリカは熱く、ヨーロッパは涼しいと諸姉は告げた。北京は水がないともあった。アフリカは内戦と飢えに悩むが、また17年ぶりの降雪もあった。幸いアメリカのトウモロコシは悪くなく、明年の世界食糧問題は安心。最近中国社会科学院孫副院长と語る時があり、一応近情に安心したが、同時に異状気象に対し忠告した。その温眼は硬化した。いまた黄河上流の大雨が報ぜられ心は痛い。広大なアメリカや中国も異状気象は地方的性格となる。シルク・ロードは注目の的、VTRの講義にも諸姉のお世話に印象に残るが、自然と生活の関連では、天山の氷河が後退し、ヒマラヤもそうだが、水が豊かになる。世界の水の収支は一定である。TVは北京でシルク・ロード名産哈密瓜が出荷され豊作だと語る。もう秋が早いご健康を祈る。エペソの「最後にいう……」御霊の剣、神の言をとれ」T姉と学んだのを思う。

（昭和五十六年三月退職。名誉教授）

昭和三十年代の回想(Ⅱ)

兵 藤 正之助



しかし、しかし、しかしです。この頃在学してた卒業生のなかには、何とも嬉しいことを言ってくれる人がいるねえ。

「先生、立派な新短大館の教室に坐ってみました。そしたら、あたし、何だか、ちつとも落ちついて勉強できないんじゃないかしらと思うのよ。なぜって、やっぱりあたしなんか窓ぎわに坐つてると冬、少しばかりスキマ風の入ってくるほうが、頭がひえて、ものがよく考えられるように思うんですもの。だから、あの頃は良かったわ」と。

しかし、しかし、しかしです。それだからこそ、あの頃の在学生は、最も頭脳明晰にして冷静にことにあたっている人が多かったもんねえ。スキマ風のせいだよ、それは。

閑話休題。さて、それにしても、さておき、

新しい「女の園」歩いていて、次に思い出すのは、いったい今の短大生は、一・二年あ

わせて何人くらいいるんだろ、とおどろくばかり数の多いのに関連することだ。

忘れもしない、昭和三十三年二月に、短大にも生活防衛のための教職員組合のできた時には、昼間部と夜間部の短大生、あわせてわずか二二二名だった。

「短大はつぶされるかもしれない」と、ひそやかにささやかればじめたのも、この頃だ。

それでも、数の多くなった現在とくらべて数が少ないというそのことには、逆に良い面もあつたねえ。

先生が学生の名前を全部知っていて（これは学生にしてみれば、ちと困ることだったかもしれないが、先生と学生との親密度が濃かつたように思う）。

例えば、天城山荘にリトリートなどによくと、二泊三日、文字どおり和気アイアイ、ロビーで休息時など、トランプに打興じるやら消燈後も、小さいどこかの部屋に集まって、時のたつのを忘れるくらい、ゲームをやったり、語りあつたり、まこと、楽しき哉、かのかずかずのことよ、と折に写真など見ながら、回想するのも、主として三十年代のことだ。

また、夜間部の学生は、総勢で五十名くら

いなので、これはさらに親しかった。男女丁度半々の学生と、大磯のアカデミーハウスや湯ヶ原の亀屋旅館などに行ったりして、リトリートの時をもつたこともなつかしい。こちらには学生がみな社会人なので、年もとっているし、深更に及ぶまで、人生、社会について談合する、そのなかも自ずと異なっていて昼間部学生とは別格の味わいがあつた。仮装行列を、キャンプファイヤーをかこんでやったのは、今の葉山セミナーハウスの前身の建物ときじやなかつたかな。

いずれも、いずれも、みな昭和三十年代においでだった。

しかし、この人たちとの夜の授業は、寒がりやのぼくには、ちとつらかつたねえ。

眼を寄宿寮（いまは何と呼んでいるかな？）に転じてみようか。現在ある建物が出来たのは、三十年代の終りごろではなかつたか。

完成の時、短大も、これでようやくシヤレタ建物を持つようになったなと思つたことだった。ことほど左様に、三十年代の短大を語る時に、まず口をとび出す言葉は、何よりも建物のことなんだねえ。

旧短大館の近くに、ルツ寮というのがあつた。インサンにして、夏なお寒しの感の、お

やおや、これがオトメたちの寝泊まりする宿か、とちと可哀相だった。

何でも、折にはユーレイが出たとか。そんなたずまいの察だった。

それでも若さというものは、そんなことを吹きとばしてしまうから、良いね。地方出身の彼女らは、短大生のなかで、最も親しい友情に結ばれているように見うけられ、元氣だった。

さて、趣向をかえて、少しあの頃の先生のことでも思い出してみたくなった。

いまは亡き、光畑愛太、通称ライオン先生がまず浮かぶね。

前述のように、二階の間借りのバラック校舎だから、三つ四つ先きの教室の音が、もし異様である場合は、つつぬけにこちらまで聞こえてきて、時には、ためにやむなくしばらく授業停止のうき目を見ることになる。ライオン先生は、そうした加害者の最たる人だった。

「バカヤロツ！ テメエ、それでもエイゴの発音してるツモリカッ！」

やっとなる、やっとなる。今日はまたばかに声

がでけえな。と思う間もあらばこそ、

家政科にでも入って、おハリをやりやいいんだ！」

と来る。ちなみに註釈を加える必要があるようだ。これは決して夜間部のオノコ学生どもを相手

ばかりではなかった。昼間の女子のみの教室においても、彼先生は、決して決して、その程度をおとそうとはしなかったのだから、たまらない。どなられ、泣き出す学生もいたとか、いなかっただとか。

次は〇〇先生……と、まだ続々と書きたい先生、浮かんでくるが、あまり書くともヨキソンとやらで訴えられるおそれがあるので、このくらいにしておこう。

短大に、ぼくは昭和二十五年四月から、四十二年三月まで、十六年間のことになるが三十年代では、何といつてもやはり、北海道旅行にいったことが、記憶にあざやかだね。昭和三十七年の夏だったかな。総勢六、七十名。いろいろな珍談のたぐいがあったね。

ねている間に、ヒタイから頬、鼻柱にかけて、真紅のクチペニで、いたずら書きされながら、ちっとも知らなかった男子勢のぼくら五名が、翌日から、「フクシユウ」のために、あれこれ策をねって実行に移したまではよか

ったが、あげくのはて、緊急臨時特別裁判の法廷をある宿屋の大広間で開かれてしまい、終始、笑いのとまらぬくらいの女検事の攻撃弁護人、被告の答弁のあつたこともその一つだった。

同行の若い英語の先生が、その「フクシユウ」の一環として、夜半、学生たちの各部屋の前にある、スリッパのすべてを、浴衣のフトコロに次々と入れ歩いたすえ、産み月近い妊産婦のような恰好になり、真面目くさった顔で、ぼくらの部屋に帰ってきた姿も、笑いの種の一つだった。

この折同行した交通公社横浜支店の若い添乗員だった矢部さんは、二十年近くもたった今だに、時にどこかで出会うと、この折の口紅事件のことを、なつかしように話す、それほど、あの旅行は楽しいものだった。どこをどう歩いたか、地名も何もおぼえていないのに。

まま、つまらぬこと、長々と書き並べてしまった。ますます発展の一途をたどる今の短大にも、こんな昔がたりのありけりと、記してみた次第である。

卒業の諸兄、諸姉よ。元氣で。また後に、語りあわんかな。——一九八〇・一一・二三

イスラエルを訪ねて

下田 哲



一九八〇年(昭55)の夏、本学の海外研修の機会を与えられて、イスラエルに行ってきた。現在イスラエルに日本から直行することは出来ない。アテネから入るのが普通であるが、その年よりエジプト(カイロ)から入れることになった。真夏の時期、又、中東情勢が必ずしも平穩でないこともあってか、同行三人という小人数で、異常冷夏の日本を後に八月九日、成田空港より一路カイロに向った。

エジプト—二十二時間余の飛行(途中、マニラ、バンコク、パレルンに寄るが、機外に出してくれない)の後、翌十日早朝カイロに着、ナイル河畔のホテルで一休みして、エジプト博物館に行く。古代エジプトの数々の遺品、ミイラ等多数が展示されている。午後、郊外のギザ市にあるピラミッド、スフィンクスを見る。砂漠の中にそそり立つこの古代の大建造物は、やはり印象深いものがあった。瞑騒と雑踏、汚れきったカイロ市街、超神風タクシー、車外に人々がぶら下っているバス、その街中をトコトコロばが車を引いている。何処にも人があふれているカイロは面白く、そして神経がクタククになる都会であった。

翌十一日は、灼熱の大砂漠の中を三時間余車で走って、地中海沿岸の古い港市アレキサンドリアへ行く。カタコンベ、ローマ時代の劇場跡等を見て市街地観光。バザールで、その活気あふれる凄まじ

さに驚嘆した。アラブの人は陽気だ。風光明媚な海水浴場は湘南以上の大混雑、「カラテ」「ソニー」「ヤープオン」と何処でも人なつこく寄って来る子供達——。帰りは沿道に樹々が生い茂っている農業道路を突走ってカイロへ戻る。ほんの僅かエジプトを見たに過ぎないが面白い国であった。万事に非効率なものには参ったが、ナイルの流れ見渡す限りの大砂漠等、忘れ難い。何時の日か再び訪ねたいと思う。夜十時発のイスラエル航空でカイロを発つ。

イスラエル 昔、イスラエルの民はエジプトを出て四十年間砂漠の放浪の旅を経てカナンの地に入ったが、今は五十分でテル・アビブ空港に到着する。カイロよりずつと小さいが、清潔で能率的な空港であった。直ちにエルサレムに向かう。深夜の車の中で、やはり胸の高なるのを覚えた。

エルサレムは石の都である。ユダヤ教・キリスト教・イスラム教の三つの宗教



の聖地であり、古いものと新しいものが幾重にも複雑に入り混つて一寸やそつと説明されても仲々理解できない。旧市街の中心にあるエル・アクサのモスク(黄金のドームをもったイスラム教徒にとって最も聖なる寺院の一つ)、城壁と八つの門、イエスの生涯の最後の数々の遺跡——最後の晩餐の部屋、ゲッセマネの園、ヴィア・ドロサ、聖墳墓教会等——見学する。どこにも壮大な教会が建てられている。ゲッセマネの園がきれいに手入れされた庭とオリブの大樹の静寂なふんい気であった。更にエルサレム近郊のベツレヘム、聖

誕教会を訪ねる。新しいものとしては、イスラエル博物館（特に死海写本館）、虐殺記念館を見学した。世界各地からの見学団でいっぱいである。アメリカ人のツアーが多い。

十五日からは、エルサレムを離れて、イスラエル国内をまわる。

死海——周囲は一本一草ない見渡す限りの荒涼とした岩山、海拔マインス四〇〇米の低地に、ネットリと波一つ立たぬ海であった。そのそばにそそり立つマサダの砦、紀元七三年、ローマの大軍に反抗して九六〇人がたてこもり、最後に集団自決したイスラエル民族の誇る遺跡。一九四七年ベドウィンの少年の発見により、聖書学界に



大反響をまき起した死海写本、二十世紀最大の考古学的発見といわれるクムラン見学——ユダヤ人ガイドの説明にも、一きわ熱がこもる。炎天下、四十度を超える暑さの中でこれらを見てもわるのは、まさに重労働であった。

有名なヨルダン川に沿って世界最古の町エリコを通り、テイベリヤへ着く。青々と昔に変わらぬ水をたたえるガリラヤ湖、緑豊かな福音書の世界がここに広がっていた。湖の遊覧船内に流れるイエスの「風の静め」の奇跡物語の美しい朗読、山上の垂訓の丘、給食の奇跡の平原、ここには美しいフランシスコ派の教会が建てられて、中には僅かな土産物を前に一人の修道尼がひそやかに立っていた。商売気丸だしのエルサレムに比して、心に残るガリラヤ湖周辺であつ

た。

上ガリラヤ地方、更にゴラン高原に上り、今もって一触即発の国境地帯で、無数の地雷、高圧電流の鉄じょう網、重武装の兵士等の姿に、一九四八年独立以来、国家としての存在を保つのに大変な努力を続けているこの国を肌で感じた。

十七日、カナ・ナザレ地方を訪ね、旧約聖書の舞台であるエズレルの野を縦走、キブツを訪れる。そのキブツにいた十三人の日本人青年男女が集ってくれて歓談の機会をもった。関西の「幕屋」の人たちで、六ヶ月一年間、聖地で聖書の勉強をするという目的でキブツで働いているという。大変な労働のようだが、彼らの顔は明るく輝いていた。

イスラエルの最終日（十八日）は、紀元前一四七八年、既に古文書に出ているメギドの遺跡を見学、ヘロデ王が築き、五〇〇年間、ローマ総督府がおかれたカイザリヤを訪ね、その夜、テル・アビブ空港を発つて、再びカイロへと戻った。帰着した東京は雨だったがその雨がとてもなつかしく嬉しかった。

以上の日程の旅であつたが、小人数、そしてイスラエルに於ては老練なユダヤ人ガイドが付いて、非常に効率よく見てまわる事ができた。二〇〇〇年の昔と変わらぬガリラヤ湖を中心に福音書のイエスの生きた地、聖書の世界を知ったことは、やはり意義深かった。エジプトを経由したことにより、アラブとユダヤの二つの世界を、自然に対照して見るといふ結果となつて、得るところが多かつた。貴重な体験を与えて頂いたことを、心から感謝している。

〔写真〕は世界の聖域（四）「エルサレム」講談社（昭五五）より引用。▽

覚え書(十一)

女専・短大小史

上市 二郎

学生たちの長い夏の休みが終って、早くも初秋の季節を感じさせる頃となった。それまで静かだった学園は再び活気づいてくる。後期の授業開始だ。登校してくる学生の髪にうす黄色になったアカシアの葉がチラチラと、肩を撫でて落ちる。このような時期を迎えるのと、覚え書の原稿が気にかかってくる。この記録も毎年移り変わる学校の生活を年代を追って拾っているが、毎年同じことを繰り返しているようにも感じられる。しかし、三十有余年の歴史の流れの中で生活された卒業生にとつては、良き思い出として私以上に懐しく思っておられる方々が多いことだろう。

さて、前回は昭和二十八年の九月初め相川先生が渡米するところまでであった。先生を乗せた船が岸壁を離れたのは、九月二日(水)の午後八時、一路米国へ向ったがそれは北海丸という貨物船で乗客は七、八人とのことだ

った。当時は関東学院大学短期大学部という制度下にあつたので、女子の教育は部長の相川先生が総てを取り仕切っていた。先生が渡米したため大学長を兼務していた坂田学院長が、不在中短大部を取り仕切ることになった。そのため、教授会も議長として運営し、理事会の報告なども含め学院諸学校の様子も知らされた。早速九月の教授会ではいよいよ明年三月下旬に英文科及び英文科第二部が、磯子区六浦町(当時は未だ金沢区ができていない頃だ)の四年生大学がある校地へ移転し、四月からは大学と共用で施設を使用することになる。と、九月五日の理事会で改めて再確認された事項として報告があつた。既に昨年度家政科は移転し短大は三春台と六浦の両校地で授業を行っていたのが、四月からは総て一緒に行動することができるようになるのである。今のところは九月の事を記しているのだから移転についてはもう少し先に記述することとする。

秋に入ると短大祭やハイキングなどの行事が計画実施される。この年は十月三日(土)に体育部主催のハイキングが予定されたが、雨のため十月五日(月)に延期して実施されている。目的地は神馬山、景信山だった。この道

は良く利用される道で裏高尾コースとも云われている所、日帰りコースとしては最適の場所だ。英文科第二部の学生も体育の単位加算というところも含め、一日ハイキングが十一月八日(日)に玄岳のコースで実施されている。当時の学生にはお互いの交りの場としても良い思い出の一つとなっていることであろう。

短大祭も十月三十日と三十一日、二日間に亘り開催され、十一月に入ってから英語劇や演劇のタベが行われている。十月三十日(金)は午前十時より鈴木正久牧師により宗教講演が行われ、午後一時からは各クラス対抗のフットボール大会が一段崖下のグラウンドで行われた。三十一日の土曜日は各クラス対抗でスタンツと合唱、午後二時より文芸講演がグレースット記念講堂で開かれ、また両日に亘って本館地下室に於ては写真展が催されていた。

十一月六日(金)には「英語劇のタベ」がグレースット講堂で催され午後五時から昼間部



学生有志による「ロメオとジュリエット」午後七時よりは夜間部学生による「ベニスの商人」が演ぜられた。昼の学生によるものは出場者全員が女性で演じ、只今のように男性が加わつての英語劇ではなかった。そのため男性役に当つた学生は大変であつたらう。丁度今年（五十六年度）の第三十回出し物も期せずして「ロメオとジュリエット」である。夜の学生は練習する時間が少くて、これも大変だったので、毎日終るのが早くて十時半、遅いときは十二時近くまで、家に着くと午前様ということが度々あつた。建物を管理する人間も毎晩のことで、大変だつた當時を思い出す。さて、翌七日（土）は「演劇の夕べ」、午後四時から短大および学部演劇部学生によるチエーホフ原作の「結末のない話」。続いて午後六時よりは前日と同じ「ロメオとジュリエット」、午後八時よりは「ベニスの商人」と二晩に亘つて秋の夕べを楽しく過ごしたものだつた。

十一月十九日（水）の教授会には、英語学校（各種学校）の件で伝達が学院長よりあつた。最初の方の号で述べた記憶があるが、大正十三年より続いている英語学校も戦後は女専、

短大の英文科が主体となつて受け継がれてきたが、夜間の短大英文科が昭和二十六年に認可されてからは、英語学校の生徒も段々と少くなり、六浦移転の時期には中止せざるを得ないのではないか、との声も耳にしていた。英語学校は三期制で四月新学期は七月に終了同じ様に九月からは十二月、一月からは三月となつていた。ところが本日の通達はいよいよ迎える一月の新学期生を今回より受け入れ中止する。即ち昭和二十九年一月生より生徒募集を行わないと云うのである。そうなる

と在校生の処置はどうなるのか。その点については編入試験、入学金を免除して横浜YMC Aにて引き受けてくれることになつたことも終わりに発表があり、感謝された。

十二月に入ると新年を迎えて卒業式迄の行事予定が発表され、昼の学生は三月十一日（木）が卒業式で、夜間部は十三日（土）となつていたが、これが三春台校地に於ける最後の卒業式となつたのである。

年が明けて一月二十五日（月）午前八時四十分横浜駅前に集合して有楽座へ「聖衣」を観賞に出かけた。この頃は映画教室と名づけて作品の良いものは授業を繰り延べして観賞したものだった。それから、例年の如く巡り来

る一月二十七日（水）の学院創立記念日、式典が六浦校地に於て開かれている。午前九時より中居京牧師の司会、ピース先生による奨励で教職員祈祷会が木造一号館二階北側の会議室で行われ、記念式は白山副学長の司式で講堂に於て取り行われていた。この時は既に家政科が六浦校地で授業を行つており、英文科と英文科第二部が三春台にあつたために、記念式が終つてから家政科と英文科との役員による親睦会が学友会主催で開かれている。

丁度この頃新年度の学年歴についての検討がなされていた。六浦校地へ移つてからの事でもあり、これからはある程度は学部と同じ時期に行事を持たなくてはならないだろうし学部の提案もあつて、従来より問題が多かつたと聞く大学祭を勉学に一番良い気候の秋より外すことになつた。そして今年は五月二十五日から二十七日にかけ、三日間で総ての行事を終るといふことになつた。しかし、配役のことや練習その他の準備を考えるとシェイクスピア英語劇は無理があるので、従来通り秋に実施するということでも了承された。

当時は願書受付業務も今迄にない変形で、六浦扱い何名、三春台扱い何名というように教授会の度毎に状況報告があつた。そして入



試面接も家政科は

二月十八日(木)午

後一時三十分より

六浦校舎で、英文

科は二月十九日

(金)午後一時三十

分より三春台校舎

で、というように

両校地で行った。

いよいよ送別会

の時期に入る。各クラブは云うにおよばず、

例年のように学友会主催の送別会が三月四日

(木)午後一時から行われている。この年の英

文科、家政科の卒業記念品は幻燈機と図書に

決定した。鉄筋コンクリート校舎の二階一番

奥の四号合併教室で紅白の幕を張って行われ

たパーティーの折、相川部長不在のため坂田

学院長が学生代表より受け取られていた。

記述が前後してしまつたが、卒業式当日の

役割分担とその責任者が今年も次のように発

表されている。式場係は安藤寿々代先生に時

田房子(現古城)さん、式場準備は門根静子

先生、受付は宮島恭子(現保科)さんと安藤

順子(現宮沢)さん、卒業証書の責任は家政

科が検垣好子先生、英文科が小滝奎子先生、

それに上市教務主任、来賓については柳生直

行先生と柴三九男先生が当ることになり式終

了後のお茶の会場準備および接待は門根静子

先生が責任をもつことになった。当時は学生

も少なかったこともあり卒業式が終了すると

お茶席に移動して卒業生および父兄と先生方

との懇親会が行われていた。

移転の時期を迎え、過去にも度々話題に上

ったことがあるが、いよいよ六浦へ移るので

その場合のことをも考えて、現在の短大の五

日制授業を六日制に切り替えることについて

どうしたら良いか、仲々結論が出なかつたの

で、今回研究委員を上げて研究してもらふ事

に踏み切つた。そのために、三月十五日(月)

にもこの問題についての懇談会が開かれてい

るが、色々な意見が出されて仲々まとまらず

この日も結論が出なかつた。そして遂に、六

浦へ移つて二回目の教授会が、四月二十二日

(木)に開かれているが、やつとこの二回目の

教授会に於て、五日制の問題は協議、研究を

重ねた結果として従来通り五日制授業で行く

事に正式の決定をみた。それが今も続けられ

ている。然し、最近は司書の資格が得られる

図書館学のみが毎週土曜日にも開講されてい

る。五日制授業とは、そもそも戦後出来た女

子専門学校の時から続けられているが、当時

は食糧事情の悪いこともあつた。然し、ミッ

ションスクールとしては、日曜日は聖日であ

り、一日教会のために奉仕できる様に、と、

土曜日を終日開けて学生自身の時間として、

今日迄来たのである。好きな学科の研究日に

当てるとか、属しているクラブの活動に使う

とか、女性のため身の回りの整理に当てる

かに使用されてきたのである。

さて、六浦移転であるが、それ以前に文部

省より事務官と私学委員が移転先の六浦校地

へ施設設備等視察に見えられたのが、三月二

十四日(水)であつた。そして、具体的に引

越し作業に入るのであるが、日程と役割分担

が発表され、日程は四月一日より三日までの

間に引越しを完了することになった。

(つづく)



C.A

展望



このインタビューのコーナーは、好評のうちに四回目を迎えました。この度は、各科よりお一人ずつ登場していただきました。教室では見られなかった先生の横顔を見ることができるかと思えます。

質問1 スーパーマンになれたら、何をしたいですか？

質問2 小学生の頃の思い出は？

質問3 一番大切なものは何ですか？

質問4 タイムマシンがあったら、どの時代、どんな人物に逢いたいですか？

質問5 何故先生になったのですか？

英文科教授 宮川喜代江



1 ッアイ・ム・ザ・スーパーマン”なんて言いながら、マントをひるがえしてビューンと飛んでネ、六浦一帯の都市造りをパッパ〜とやってのけますヨ。まず短大の敷地をウーンととってですネ、キャンパスにリスが遊び、四季折り折りの木々や花を植え、澄み切った美しい待従川の

流れがキャンパスを横切り…というもの

にしてから、近辺一帯の区画整理をして

高層住宅を建てましてネ、一世帯あたりの

フロア面積を広くとって、緑の公園を増やし…

2 私には台湾の南の高雄というところの生まれで

で女学校の二年くらいまでいました。

あちらは果物が実に豊富でバナナ・パイナップル…

なかでも竜眼（りゅうがん）とい

って、そうですネ、ぶどうの巨峰みたいな

大ききで、皮が薄茶色でちよつと堅くて、

3 ピワみたいな種が入っていて甘ずっぱいものなんです

4 が、それが台湾にはあったのに、日本にはない

5 なあ…それがとてもおいしかった。そんなことを子供の頃のこととして思い出しますヨ。

3 もちろん私の美と健康です。(ウ・フ・フ)

4 平安時代に行き紫式部や清少納言に会いたいです

5 ね。私も十二単衣を着て(むこもを着ているでしょうしネ)衣ずれの音をさせて

宮廷を歩いてみたいですね。そして紫式部とよま

5 やま話なんかしてみたい、なんて思います。

5 大学(広島女学院)を卒業しまして、母

校ですすめられるままに研究助手として一年残り、引き続きそのあと二年程アメリカに行っておりました。帰国後再び大学に助手として戻り、そのあと、高校教員の経験も経て、今に至っています。

母方の祖父が嘉永六年(一八五三)生まれでしたが小学校の校長をやってまして無意識のうちに影響されたのだと思います。父方の叔母二人もその時代としては珍しく師範も出ていまして教員で、自分も教員という仕事にさほどの廻り道もせず、何かの強制もなく自然となったようです。周りの環境もあるでしょうしね、私の姉、弟、妹四人とも教員でしたしね。

国文科助教 土井 清民



1 宇宙旅行をしてみたい。そして地球を一つの星としてながめてみたいです。『竹取物語』の時代にも月に行く事は夢みられていたけど、それは神の住む世界でし

た。そこへ今では行けるようになっていきます。人間の希求する事は次々に実現されていくのですね。宇宙旅行も今は夢だけどいつかは行けるようになるでしょう。でもそれまでは生きていないだろうが……。終戦後新潟に5年程いたのですけど、佐渡ヶ島の見える海岸でよく遊んだのをいつも懐しく思い出します。自然の中で思うままに生活できたのが楽しかった。

3 人間の感情とか感覚など感受性というものを大切にしています。

4 三世紀ごろの耶馬台国とか卑弥呼の世界を覗いてみたい。魔術で国が治められていたとか観念で想像されていますが、実際はどんなだったんでしょうね。それから紫式部にも会ってみたいです。前に坐っているだけで心の中を見透かされそうで恐ろしさを感じるけど、どんな人物だったのでしょうか。

5 若さへの魅力ですね。私は万葉集に魅せられたのですが、その万葉集は叙情詩の世界です。現代の叙情詩は青春の文学、つまり石川啄木のように若くして死んだ人や、島崎藤村のように年をとったら小説に転向してしまった人達に代表されま

すが、万葉集の頃は大伴旅人や山上憶良などのように60才を過ぎてから本当にみずみずしい作品をうたい始める人もいたります。万葉の時代そのものが日本の青春時代だったということでしょう。その万葉集のいくつになっても持ち続けるみずみずしさ、力強さにひかれます。それが私の教師への道となりました。

家政科助教 手嶋 登志子



1 自分自身がのんびりしているせいか、現代は忙しすぎると思うので、時計の針を少しゆっくり進めてみたいです。そうすれば、少し長生きできるのではないかと思います。

2 小学生の頃が一番なつかしい時ですね。川あり、野原ありの熊本の田舎に住んでいましたので、草や木で秘密の家を作って遊んだり、男の兄弟ばかりだったのでままごと遊びよりもっと男性的(う)な

幼児教育科助教 近藤 弘



遊びが多かったようです。そして強烈な印象は空襲で近所の家や学校が目の前で焼けおちたことです。でも今の社会にはないような地域の子供達同志の縦のつながりがあった、楽しい遊びの中にも教えられることが多くあったと思いますね。ものには執着しませんので、友だちかす。共感を分かちあえるような、そんな友だち。

4 過去よりも未来を知りたいですね。世の中全体がどう変化しているのかを知りたい。あえて過去と言うならば、戦乱の世の武将とか幕末の志士（例えば坂本龍馬など）に会って、今の日本について話し合ってみたいと思います。

5 何故か、ウーンでおしまい。（と書いておいて下さい。と最初は言われましたが）強いて言えば、中学の数学の先生（の思想に影響されているから。それと以前の仕事の関連とから、栄養士の後進を育てたいと言う気持ちもありましたね。でもとても周囲に恵まれて、今の自分はあると思っ、感謝しています。

1 世界を回って、いろいろなものを見てみたいですね。人間って歩いて行く事は出来るけれど、上から眺める事は出来ないから。アルプスなんかを上から眺めてみたいですね。

2 とにかくよく遊びました。外でメンコ・缶ケリ。学校では、よく野球なんかして遊んでいました。外野が好きでね、楽しんで。雨の日は盤ゲームなんかして遊んでいました。丁度、小学生時代が戦後の混乱期だったものだから、「勉強しろ」などと言われずに、外、家でよく遊んでいました。

3 先生では、四年生からの先生が忘れられませんね。朴訥とした先生でよく可愛いがられました。短歌、俳句を教わり、一生懸命作ったりしました。

3 真理かな。世の中嘘の事が多い。そんな中で、虚偽・ごまかしではない、本当の

事を大切にしていきたい。又、自由ということも大切なのでは。ぐうたら、わがままを含めて自由。好きなように生きられる自由も大切にしていきたいですね。イエスに会いたいですね。聖書には書いてあるが、実際どんな人なのか見て確かめたいですね。そして人間的な質問を投げかけてみたいですね。「あなたは本当にキリストなんですか？」って。

5 高校時代、小学校の先生になろうと思いで大学の教員養成科に入ったのですが、三年進級時に教育実習があると聞いて、恐ろしくなり諦めました。当時は、人の前で話すなどということは自分には出来ないと思っていましたから。文学部教育学科を卒業したのですが、就職口がなく、公務員試験を受け家庭裁判所の調査官の仕事をしました。人の話を聞かなくてはいけない仕事だったので、なんとなく自分の言いたい事が言える仕事をしたいと思いい出し、大学の先生なら言えるのではない、大学に戻り、必然的に先生になつたようです。

展望 番外編

55年度短大祭にアドバイザー紹介として、学生が描いた中から傑作を選んでみました。

山下輝彦先生は一般教育の法学担当。絵が全てを物語っています。

(編集者一同言なし)

倉沢新一先生は家政科食物栄養専攻の先生です。ただ今ピアノのバイエルを猛レッスン中とか。(絵からは想像できない?)



コヨーポットライト

波間に漂う心

田野井 康 江



どこまでも続く海原、比べる物もない美しい太陽——。波のさざめき。もう船を降りて何ヶ月かが過ぎました。この船というのは、日本青年会議所主催、J C青年の船です。この船は横浜港を出航し、13日間にわた

り、日本全国各地から来た青年と、19ヶ国の青年、そしてJ Cメンバーの方々約五百人の人々が乗船し、東シナ沿岸を巡る間に永六輔氏、富永一郎氏、稲尾和久氏など、ジャーナリスト、政治家、芸能人、経済界の人など、15名の多方面の講師を迎えて、講演を行ないました。さらにデイスカッションやクラブ活動、レクリエーション等、親睦と同時に、今世界がかかえる問題を考える船の青年学校でした。

私がこの船に乗る様になった理由は、兄が日本青年会議所のメンバーであることと、私の姉も以前に乗船したことがあり、その素晴らしさを聞いた為です。そして私は学院を卒業後5年間横浜市内の幼稚園で教諭をしている中で、年々自分の中に一種のマンネリズムが起きてくるのを感じていました。毎日の勤めは、それ自体楽しいのですが、行事に追われたり、自分の稽古事に追われたりして、もっ

と大切な何かを考える時間さえなくなっていました。昨春退職し時間的にもゆとりができ新しい何かを求めて、この船に乗船しました。講演の内容は、身近な人生の問題から、政治経済の話、戦争と世界平和の話まで、一つ一つが、今までの限られた私の生活の中でまったく触れることのないような事が多く驚くことの連続でした。一口で人生の問題といっても、多才な講師陣の口を通して話されると、実に色々な見方、感じ方があるもので私のように物事を一面からしか捕える事のできない者にとつては目を見開かされる思いでした。何も考えずに毎日を過ごしていた事が不思議なくらいです。講演もさることながら、各地から集まった人達との交流も大きな収穫の一つでした。レクリエーション、デイスカッションを通して年齢や環境の異なる人と話し合ったり、個人的な交流で人生問題を話したり、目に見えない心の財産をふやした思いがします。又、未熟な英語で招聘青年（外国からの参加者）との交わりは、個人レベルでの外交と言うか外国での個人の生活を知るうえでとても大切だと思えます。単に知識として外国を知るのではなく、人間を通して現在の生きている世界を知る事ができました。そして又、普段テレビなどでしか接する事のない先生方とも、講演以外にも、小さなグループで、身近に話しを伺う事ができたのも嬉しい事でした。型にはまった人生論とは違い、生身の人間として、温もりすら感じる話し合いは、耳で聞く以上に説得力のあるものです。その他、運動会やヤングフェスティバル（お祭り）など、とりすましたカラを脱ぎ捨て素顔の自分で参加できる行事もありました。短かい時間の中で自分達で何から何まで計画実行するのは、なかなか大変ですが、反面どうしてもやらねばならないという集中力も要求されます。得意な分

野だけでなく、苦手な事もやらなくてはお祭りは成功せず、楽しくもなくなくなってしまふ訳です。この事は単調になりがちな船の生活にうるおいを与えてくれました。

そんな時、この船に、ボートビープルいわゆるインドシナの漂流難民が救助され、より一層身近に世界の現実をつきつけられる様な事件がありました。シヨック。本当に大きなシヨックでした。何一つ心配なく三食の食事を与えられ、研修旅行をしている私達と生死を賭け見知らぬ海を漂っている人々、何という差でしょうか。自分でも意識しない間に、ぬくぬくとめぐまれ与えられているという事は、人間の心から他者の痛みや悲しみ、苦しみを考えるゆとりを消してしまうのですね。自分達だけのバラ色の世界にばかりきってしまう私達。私もまったくその通り。自分のしあわせの追求に明け暮れていたことを思い知らされました。ボートビープルは遠い世界の出来事ではなく、今、自分の身近にあること、いえ身近にいる人々であると思えるのです。この事は単にボートビープルという様な大きな問題を大上段にふりかざすことではなく、自分の心の中で、自分以外の人に無関心になり、利己的になる思いを転換して外に目を見開く姿勢を持つ事の大切さも知らせてくれました。この事件に直面しなければ、ただ楽しく有意義な船の旅にすぎなかった今回の旅行も、ボートビープルと身近に出合うことで、もっと大きな優しさを持つ事の大切さを心に留めることが出来ました。他者の痛みを自分の物として感じられる人として生きてゆきたいと思っています。



◎筆者紹介

昭和五十一年三月に本学幼児教育科を卒業され、幼稚園に就職されましたが、現在は自宅で花嫁修業中。

香報室



この欄は、卒業生の皆様の消息、感想文、等の発表の場として用意いたしました。今回も引き続き、昨年の総会出欠通知から無断で転載させていただいておりますが、短大香葉会「香葉」編集局宛、次号への原稿などお送り頂ければ幸いです。

幼稚園の先生も今年で4年目。あらあらという間に年ばかりとって、その割には、中身が伴わないなど言うのが、自分自身の感想です。昨年までは順調にいていた保育も、今年のニューフェイスは手ごわく、26人のチビッコキヤングに泣かされたり、笑わされたり。3年のキャリアなので、ほんとにたよりないものです。でも、むずかしい子供であるからか、少しの成長にもうれしく、あの子とあの子が話をした、なんて他の先生がみればなんでもない一つ一つに感動しているこのごろです。

(剣崎幼稚園勤務)

高梨るみ子 53幼

卒業後、花嫁修業もそこそこに結婚し、12年が過ぎ、女兒2人の母となり、今では子どもの手もはなれ、ふと、学生時代の友人と音信不通になっていることが残念に思います。以前には香川県人会の活動もありましたが、今では下火になっています。きつと転勤などで、こちらへお越しの方もあろうかと思えます。現在身近に県人会のメンバーもいません。ぜひ連絡下さい。私は女子寮で生活していましたが、友人にいつも、さぬき弁のアクセントがおかしいと言われて、2年間で少しは改

良されていたのに、今ではまた、さぬき弁でペラペラしゃべりまくっています。最近、校區のママさんソフトボールのチームに入って楽しく体を動かしています。いつまでも若々しくいたいとがんばっています。

平井(槌谷)道子 42英

毎年「香葉」を送って頂き有難うございます。楽しく拝見させて頂いております。

こちらに引越して参りまして早や1年が過ぎました。狭い庭ですが、四季折々の草花を植えたり、きゅうり、なす、ピーマン、トマト、しそ等を作り、家庭菜園を楽しんでおります。土に親しみ、収穫の喜びを子供に与えられたらと頑張っております。

村田(高橋)玲子 43国

東芝科学館に配属されて2カ月程経ちましたが、日本語と英語の案内なのでまだまだ覚えることが山程あります。内容もレーザー原動力発電、電気、マイコンetcなので理科の分野も勉強しなければなりません。また来館者も小人から大人まで、素人、玄人、外国人、VIPと様々です。胃の痛くなるような日もありますが、楽しく頑張っています。又

7月には仕事で神戸のポルトピアを見てきました。
す。
(東京芝浦電気(株)勤務)

西尾浩美 56英

昨年は、血管腫という病気で手術をうけました。肉腫では？などと心配したのですが、病理検査の結果良性腫ようとなりました。

今までテレビや小説で肉腫という言葉はうけとめていましたが、まさか自分にふりかかってようとは思いませんでした。入院中は2人の子供のことばかり考えて、涙がポロリ。下の子はまだおしめをしてミルクなんです。健康でこくふつうの日常生活が送れるということが、どれほど幸せなことが身にしてみわかりました。元氣になった今、欲ばらず子供のため、主人のため、家庭を守っています。近頃ようやく本に接するよゆうができました。
芹川(堆朱) 静子 45国

二人の娘は三才と六才になり、大分手がからなくなつたので、一年程前より関東学院時代に青春のすべてをそそぎこんで活動したバドミントンを何十年ぶりで再開し、現在家庭婦人のバドミントンクラブの副部長として週二回、時には練習試合などが間に入つて

この所、週三回の練習で頑張っています。先の週末は二泊三日の合宿で楽しんできました。学生時代にバドミントンをやっていた本当に良かったと思つています。一度、学院のクラブの練習に是非、顔を出したいと思つていますが…… *飯原(福島) 瑛子 41英*

卒業と同時に玉川大学の通信教育部に入学しました。アルバイトをしながらの不安定な生活に終止符をうち、現在四年生を担当しています。一日がとても短く感じられます。

忙しい中にも、楽しい一時が……それは給食「いたあ」などと、言っている毎日です。子供たちから、先輩の先生方から、学ぶべきことがありすぎて困るくらいです。とにかく体に氣をつけて、休まないよう、心がけています。今も玉川で勉強しています。(横浜市立丸山台小学校勤務) *田中由美子 54家*

先生と呼ばれるようになってから、二年目を迎えました。昨年は毎日が戦争で、どうにかやるべきことをこなしてきた、という状態でしたが、四月から年長児を持つことになり、昨年とは又違った大変さがありますが、毎日

がとても楽しく充実しているように思えます。子どもたちを見る目にも余裕が出てきて、どんな時にも冷静に見つめられるようになってきているようです。園での仕事は雑用が多く又園長先生の望まれる事が多いので、とても辛い事が多いですが、子どもたちの顔を思い浮かべると、弱ねをはいている自分が恥ずかしく思われます。(白幡幼稚園勤務)

足立富美代 55幼

入社して早いもので、もう三ヶ月目に入っています。やつと職場の雰囲気にも慣れ、何とかがんばっています。あいかわらず失敗ばかりの毎日ですが……。楽しい事もあります。が、やはりつらい事もたくさんあり、改めて社会の複雑さを通感させられました。それでもお給料をもらった時のうれしさを考えると「がんばらなくては」という気持ちになります。とにかく、まだまだ先は長いのですから自分を見失わないようにがんばって行きたいと思つている今日この頃です。(日興證券株式会社勤務) *木村圭子 56国*

家族の中でただひとりのクリスチャンだった私も、祈りと感謝の中で母をクリスチャン

としてむかえることが出来、毎日が恵みにあふれています。

先日、はじめて我が家で家庭集会をひらき、近所の方々を集めて、小さな輪ではありませんが充実した時を過ごすことができました。関東学院に学んだことは、今になってすべて神の導きであり、私が道をそらすことなく今の私をささえてくれる基盤になっていることを思うと本当に大きな感謝です。

毎週、教会学校で子供さんびかの伴奏で悪戦苦闘です。
原田玉枝 54家

おかげさまで、園生活2年目を迎えております。「見られている自分」をひしひしと感じさせられる毎日です。「きれいなもの」と「美しいもの」——それは確かにどこかに違いがあるものであろうことを、感じはじめている今日この頃です。

皆様の御健康と御活躍をお祈り申し上げます。
高尾美幸 55幼

53年秋に結婚し、早くも2才の女兒と7カ月の男児の母親になりました。Oしたった頃は早く会社をやめて結婚したいと思つていましたが、いざ主婦になつてみると、とても大

変で自由に遊んでいた頃がなつかしく思い出されます。子供がまだ小さいのでなかなか外出できず、息のつまるような毎日を送っています。今はただ子供達の成長だけを楽しみに過ごしている次第です。

友成(馬場)浩枝 49英

相変わず、朝、母に起こされて、作つてもらつたお弁当を持つて駅までかけ足の毎日です。卒業してまる六年、二児の母という人もお友達の中にチラホラですが私の方は当分独身貧乏(?)の生活が続きそうです。合唱団やエレクトーンなど音楽方面でがんばっています。

新しい学校、是非一度見学したいです。

久保千佳子 50国

楽しみにしておりました香葉No.十とても懐かしく拝見させていただきました。

卒業して早二十六年の月日が流れてしまいました。今私は子育ての喜怒哀楽を十分に満喫しながら、多忙な日々を送っております。小三の娘と共に、学生時代に返つたつもりで音楽や理科を楽しんでおります。

時折、横須賀地区で三、四人のミニ同窓会

など開きながら、昔の思い出を語り合う事もあります。気持ちだけは、いつまでも若くありたいと願っているのですが。

古畑(川戸)美佐子 30家

主婦といえども、靴屋一軒を持たされて、毎日お客様相手で「ありがとうございませう」を繰り返しています。卒業当初は東京に住むとばかり思っていました。卒業後十三年、杜の都・仙台に永住の予定で根を下ろしています。長男五歳を頭に長女三歳、次男二歳、そして十一月には四人目の子供が生まれる予定で、増々にぎやか、家族は九人になります。驚くでしょう。*伊藤(志村)菱子 43英*

結婚して二年と少しになります。一歳になつたばかりの男の子を母に見てもらつて働いています。おなかには、八月出産予定の赤ちゃんがあります。年子で二人も子供がいては働けないか……と勤めを辞めるつもりではありませんが、どうしても家に入ってしまうのがいやで、来年四月から長男は保育所、二人目は母に甘えて、働くつもりでがんばっています。会社は新宿にあり、なぜか経理部で会計事務をしております。(国際電信電話株式会社

社勤務)

日向(江口) 節子 51 国

自動車部品製造会社の事務として就職し、あつという間に一年が経ってしまいました。

はじめは戸惑ってばかりでしたが次第に慣れ今では忙しいながらも楽しい毎日を送っています。忙しいとは心をほろぼすと書きますが今のわたしにとって、そんなことは無縁のよいものです。忙しさに自分を失わないようにしたいものだと思います。(幟中村製作所勤務)

金子るな子 55 幼

卒業後、すぐに二十才で箱根山和菓子製造元に嫁ぎ早や一五年、男女二名づつ、計四人の子持ちです。若さだけは失わずに子育て、商売、etc. すべてにフル回転の毎日です。人になれ 奉仕せよの言葉を常に心の中においてきましたが、やつとその深い意味をつかんだ昨今です。

皆様、箱根にお出かけの節は是非一度当店(孫三総本家)のおいしいお菓子を召し上がって下さい。*瀬戸(永瀬)美和子 40 英*

高校時代のクラスメイトは、ひとりふたりと結婚していくし、今年入園した子に、今で

こそ「先生」と呼ばれているけれど、四月は「おばちゃん」と呼ばれ「もうそんな年になつたのか、あー」とつくづく感じさせられます。でも、めげずに頑張っています。(社会福祉法人ルンビニ保育園勤務)

富士さゆり 55 幼

就職した時には鎌倉影にはあまり関心がかつたのですが、仕事に慣れるにつれて段々と興味が出てきた近頃です。また最近一段と英会話がおもしろく感じられ、短大時代に習得した会話を衰えさせないように、毎日英語雑誌を読んだり、機会があれば外人に話しかけたりして英語を楽しんでいます。仕事は英会話とは全く関係ないので、今の所このように両立させて頑張っています。(伝統鎌倉影事業協同組合)

波多朝子 56 英

子供が生まれて以来、学校で勉強した事もう一度見直し、家庭において栄養士として少しでも役立てようと考えています。現在、安全な食へ物とは何か；等々。農業問題、公害問題に及びまだまだ勉強中というところで。今後学校給食の問題点も多く、有機農業

の研究など多くの会と接しながら毎日あけています。先生にも伺いたい事が沢山あったことに、今頃になって気付いている訳なのです。*佐々井(佐川) 倫子 49 食*

栄養士として就職して7年目、結婚して2年余月、私もやつとママになれそうです。

学校に勤めていますので、口の悪い子供たちが「栄養士のおばさん」と呼びます、そうすると、「おばさんじゃないのよおねえさんなのよ」と話すと「じゃ歳いくつ?」「18歳よ!」「へえー松田聖子より若いの!」「そうなのよ!」

でも、だんだんおばさんになっていくんだなと思います。仕事がとてもおもしろい現在です。(横須賀市立浦郷小学校勤務)

中川(熊谷) 節子 50 食

お知らせコーナー

香葉会の つどい

皆様お元気でいらっしゃいますか!? 年に一度の同窓会の季節がやってまいりました。家事に、仕事にとお忙しい毎日かと存じますが、懐かしい先生方を囲み、学生時代に返ってみませんか。是非お出かけ下さい。

日時 6月27日(日)

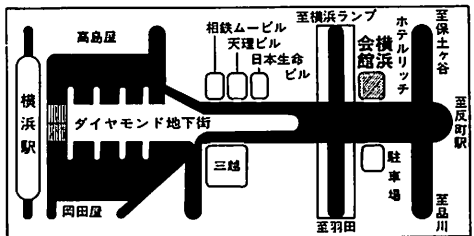
13:30~15:30 受付 13:00

場所 ホテルリッチ 横浜

横浜市西区北幸1-11-3

TEL. (045) 312-2111

会費 2,500円



尚、準備の都合上、同封の返信用ハガキに出欠、近況をお書き込みの上、6月19日迄にお返事下さい。お問い合わせ等は、短大内香葉会室 ☎ 045-784-1491 内線 216 までどうぞ。

母校ニュース

△新任教員紹介▽

矢嶋道文先生——一般教育（文化史）担当



四年前より本学にて非常勤講師として勤めていらつしやいましたが、五十六年度より専任として英米

文化史（英文科）や国史（国文科）等も教えられています。

小林 進先生——英文科担当



小林先生も前年度は非常勤講師として来ていらつしやいましたが、五十六年四月から英文科の専任講師になりました。ニューヨーク大学に留学の経験もあり、日本語よりも英語の方が得意（!?）とか。

お二人とも昭和二十二年生まれの若さいっぱい先生です。今後のご活躍が楽しみです。

△本学付属幼稚園発足▽

昭和二十三年六月、関東学院教会幼稚園として発足し、昭和二十五年十二月に関東学院幼稚園として学校法人の仲間入りをして三十年、幼児数の低減という社会現象のため園児が少なくなり、経営面から見た将来性が不安定化してきていた。このため二年前より検討が加えられた結果、幼児教育科の研究・教育の実践の場等として、昭和五十六年四月より関東学院女子短期大学付属幼稚園として再発足した。

△入学定員増認可▽

昭和五十六年度からの入学定員変更を文部省に申請していたが、昭和五十六年一月二十一日に認可された。今回の定員増は、現在の在籍者数を定員化するという趣旨で行われたため、今よりも学生数が増加することはなく、五年後には定員の約一・三倍、約一五〇名程減少し、教育条件は一層向上することになる。定員増により各学科の入学定員は次の通りとなった。

英文科一三〇名、国文科一〇〇名、家政科家政専攻八〇名、食物栄養専攻八〇名、幼児教育科一五〇名、合計五四〇名、総定員一、〇八〇名。

△日本栄養・食糧学会関東支部大会開催▽

第28回日本栄養・食糧学会関東支部大会（会長 林淳三学長）が去る十一月十四日に本学において開催されました。当日は、関東各地の大学、研究所、会社より約百四十名程の学会員の方々が集まり、一般講演および報告講演、「食生活の動態と栄養学」と題し、栄養指導の各面から見た食生活のシンポジウムが行われた。学会は四年制大学での開催がほとんどのため、本学にとつては良い機会であった。

△林 淳三学長、厚生大臣賞受賞▽

林学長は栄養士養成に関わる長年の尽力が評価され、昭和五十六年度栄養関係功労者として、九月十六日群馬県民会館において厚生大臣賞を授与されました。

△相川先生、勲三等瑞宝章授与▽

元学長相川高秋名誉教授は、秋の叙勲において、教育分野での多年の功績に対して勲三等瑞宝章を授与されました。

△体育館、第一ルツ寮改修される▽

体育館の外壁の全面塗装、南面に研究室、暗室、器具庫が増設された。また、第一ルツ寮が寮室等全面的に大改修がなされた。同時に食堂との渡り廊下も完成し、雨の日など寮生にとつては特に便利になった。

クラス会報告

〔岡松先生壮行会〕

我が国文科の岡松和夫先生が、八月から半年の御予定で、ブラジルのサンパウロ大学にて教鞭をとられることになりました。そしてそのささやかな壮行会が、去る七月十九日(日)、同窓の有志によって、鎌倉駅前の「ランプポスト」で開かれました。

短期間のくちこみでしたが、一回生から十回生までの約四十名程が集まり、先生を囲んでなごやかな一時を過ごしました。

すでに在学生の一年分の講義を終えられた先生は、元氣一杯、余裕しゃくしゃく、準備は着々といった御様子、異文化の地での期待に燃えていらつしやいました。

私達は先生の御健康と御活躍を祝して、紫のトルコ桔梗の花束とポロシヤツ、そして梅ぼしと日本茶をお贈りしました。

先生の御土産話を楽しみにいたしましょう!!

国47年卒 西村幸子記

〔定例クラス会〕

好天に恵まれた

十月二十五日(日)

京浜急行黄金町駅

近くのホテルニュー

オータニ・イン

に於いて、二度目

の第四回卒業生同

期会が開催されま

した。あいにく兵

藤先生は、お風邪

のため欠席なされ残念でしたが、お

忙しい中、相川先生・柳生先生・小滝先生・

上市先生のご出席をいただきました。卒業生

二十三名の出席者と共に、近況報告や、体験

談など、つもる話に花が咲いて時のたつのも

忘れて、楽しいひとときを過ごしました。次

回の幹事は、青木(小林)・勝(原)・高橋・松

岡・松崎(菅田)の皆様方が、お引き受け下さ

いまして、名残りはつきませんでした。次

の再会を楽しみに散会いたしました。

英30年卒 梅田玲子記(旧北村)



好天に恵まれた十一月十五日(日)英文科第

三回Aクラスは、二十数年振りに集いの会を

持ちました。(横浜地下鉄高島町下車、かわ

ら亭にて)音沙汰なしのわがクラスの名簿

づくりをきっかけに、取り敢えずのクラス会

準備会として開きました。突然の電話での呼

びかけにも拘わらず上市先生もご出席下さり、

以下十六名もの方達の参加があり嬉しい限り

でした。卒業以来初めての友の顔に学生時代

が重なり、なつかしく楽しい半日に、学生時

代をお互いに共有し得たという事の素晴らし

さを痛感致しました。上市先生より母校の近

況を伺ったり、写真をみせて頂きました。三

春台のお山の最後の卒業生としての私達にと

りましては、その発展と繁栄は、目をみはる

ばかりの驚きであ

り喜びでした。名

残り盡きぬまま来

年の再会を楽しみ

に夕刻会を終りま

した。

英29年卒

梅山治子記

(旧丹野)

小浜朝子記



五十六年度

総 会 報 告

去る六月二十八日、恒例の卒業生のつどいが山下町ザ・ホテルヨコハマで開かれた。二年続きの雨にたたられ六十四人というささやかな会だったが、会場の雰囲気は上々、ご馳走も美味しく好評だった。林学長はじめ英文科から小玉先生、宮川先生、幼教から中田先生がご出席下さった。総司会礼拝を光畑氏（英Ⅱ二十八卒）奏楽を井坂嬢（幼教五十六年卒）で一時半、礼拝に始まり、総会は田中幹事長（家五十二年卒）辻副幹事長（国五十二年卒）のニューフレッシュコンビの司会で会計事業報告、来年度予算案と五十八年度からの会費値上げ、賛助金を一口千円にする案を承認して戴いた。諸物価特に郵送料の値上げがひびいて台所が苦しく、会員の皆様の応援を宜しくお願いします。学校側は、購売部の委託販売手数料をそっくり香葉会に入金して下さって年に約百万円という大きな収入源になっている。感謝ノ 役員も更に一年続けることを承認して戴き、やる気充分の若いメンバーを加えてリフレッシュされることを期

待しつつ、頑張ります。二部は五十嵐嬢（国五十一年卒）のあざやかな進行で、学長の学内報告をはじめ先生方のお話、会員諸姉の自己紹介四方山話を大いに楽しみ、四時閉会。後は元町ショッピングや中華街に二次会と繰り出した連中もあつた模様。来年もお友達、ご家族づれでお出かけ下さい。お手伝い下さった庶務課の皆様のご苦勞に心から感謝します。

（古城記）



第一部

礼 拝

前 奏

讚 美 歌 537

聖 書 詩篇 133篇1節

祈 禱

讚 美 歌 391

黙 禱

後 奏

総 会

会 計 報 告

事 業 報 告

経 過 報 告

新 年 度 予 算 案

そ の 他

総司会 光畑 清

司会 光畑 清

奏楽 藤田 幸子

第二部

あいさつ

司会 五十嵐亮子

香葉会 昭和55年度決算、56年度予算

昭和55年度決算				56年度予算	
収入の部	予算	決算	増減	収入の部	
会費@4,000×684	2,736,000	2,736,000	0	会費@4,000×776	3,104,000
合同援助金@1,000×684	684,000	820,800	136,800	合同援助金@1,000×776	776,000
賛助金(167名)	100,000	341,850	241,850	賛助金	300,000
委託販売手数料	770,000	1,020,986	250,986	委託販売手数料	900,000
総会会費	—	70,000	70,000	預金利息	30,000
預金利息	15,000	50,229	35,229	雑収入	—
雑収入	—	81,900	81,900	前年度繰越金	405,697
前年度繰越金	1,756,711	1,756,711	0		
合計	6,061,711	6,878,476	816,765	合計	5,515,697
支出の部	予算	決算	増減	支出の部	
事業費	1,100,000	1,226,326	△ 126,326	通信費	1,500,000
総会費	450,000	424,890	25,110	印刷・製本費	600,000
会合費	500,000	557,020	△ 57,020	総合会合費	600,000
通信費	100,000	14,760	85,240	交通費	100,000
交通費	100,000	138,600	△ 38,600	用品費	30,000
用品費	500,000	455,600	44,400	委託費	60,000
事務・印刷費	250,000	60,933	189,067	謝礼費	80,000
事務委託費	400,000	400,000	0	消耗品費	20,000
新入会員歓迎費	1,000,000	1,170,400	△ 170,400	人件費	470,000
合同分担金@1,300×684	889,200	889,200	0	合同分担金@1,300×776	1,008,800
基本金繰出	300,000	300,000	0	新入会員歓迎費	1,000,000
名簿発行準備金	300,000	300,000	0	基本金繰出	0
予備費	150,000	500,000	△ 350,000	名簿発行準備金	0
雑費	22,511	35,050	△ 12,539	予備費	30,000
次年度繰越金	—	405,697	△ 405,697	雑費	16,897
合計	6,061,711	6,878,476	△ 816,765	合計	5,515,697

合同同窓会報告

前号で、会則の変更が継続審議になっているところ迄報告しましたが、会則変更に伴って合同の事業として会館購入の案が出て、一年間月に一度幹事会が開かれ(古城、相吉、田中、青木が出席)意見の交換を続けてきました。その結果、五千万円程度の支出で買える物件を探すことになり、各会から一名ずつ実行委員を出すことになりました。問題は資金ですが、私達が分担し積立てた合同の基本金一千万円を一部に充当し残金を四部会で出すことになりました。その割合は八〇%を燦葉会が負担し二〇%を概観会、五%づつを六葉会と香葉会でもつことになりました。この負担割合では燦葉はかなりの犠牲を負うことになりませんが六葉、香葉の会計事情を考慮して下さったの結果です。具体的には二百万円の負担になります。会則は法人として改めて、新しい構想でやり直すことになり目下、棚上げ状態です。支払い方法は、これから考えるべき課題ですが幹事会、評議員会で相談していきます。香葉にとつては大きな負担ですが合同の決定に従って、早い時期に皆様も利用出来る会館を持てるよう協力していきたいと思えます。

(古城記)

賛助金をご寄付

下さった方への

お礼とお願ひ

今年も後記の方々から総額「二十五万二千五百」の賛助金をお送り頂きました。厚く御礼申し上げます。諸物価値上がりの折、大変心苦しいのですが、香葉会の賛助金も一口五百円から千円に値上げさせて頂いたことになりました。勝手なお願ひですが、卒業生唯一の雑誌を長く発行したいと思っておりますので、今後共ご協力をお願い致します。

五十六年度賛助金寄付者（敬称略）

菅野明美 本田憲代 住本恵子 高野由美子
 峯尾愛子 長井恭子 平井道子 鈴木ひろ子
 石渡嘉子 星野昌子 佐藤貴美 田中恵美子
 足立求子 小川富江 田村照子 仲村恵理子
 松田良子 長部富子 布施里佳 清田恵美子
 佐藤美代 態谷君代 神部映妙 森田いく子

藤田久代 寺内雅子 鶴見智子 錦織マサ子
 林香代子 京免静子 山屋俊子 福田しほり
 佐藤晶美 押野澄子 高山政子 伊東みゆき
 小松照代 住吉桂子 名波貞子 中山恵美子
 山平洋子 田辺洋子 玉木宮子 関野としみ
 海老澤さよ子 大高清 菊地和子 秋山悦子
 リーディ実子 山本祐 細野清美 井田玲子
 町美智子 都竹道美 山本初江 三輪由利子
 澄谷亮子 金子貞子 塚本令子 佐々木清唯
 小野昭子 矢田宏子 脇出和子 中村はるみ
 雨宮慶子 土屋明子 中川あや 田丸瑠美子
 小木淳子 原鳴曜子 金田春美 岡崎真理子
 稲垣愛子 光島洋子 河原和代 浜谷富美子
 恩田靖子 藪登喜子 大井法子 霜鳥三枝子
 鈴木鶴子 梅山治子 石守系み 大石豊代子
 別府弘子 松岡伯江 土屋幸枝 田中寿美子
 木元陽子 木村燐子 原田玉枝 又市三千代
 加藤薫 堤典子 長谷川登美夫 市山久美子
 平山則子 朱雀凉子 山川恵子 石田不二子
 内田駒子 田中綾子 高橋秀子 山田美穂子
 早崎真代 田中晴子 齐藤道子 福岡世紀子
 田牧洋子 斉田実子 洲上龍美 衛藤理恵子
 小鮎章子 波多朝子 清田一美 岡田真里子
 山泉敏子 千田恵子 小島純子 山崎由紀子
 原満由美 篠崎寿代 鶴見朝子 大木由紀子

根岸るみ 守家鈴子 吾妻彩子 土田由利子
 吉田弘子 松原英子 吉川和子 西村真澄美
 岡寄幸恵 水木宜子 堀越昌子 石井多恵子
 関令子 田中啓子 中石みどり 細田喜久子
 芝文枝 辻真由美 鈴木恵美子 青木千恵子
 古城房子 出菜美子 松岡梅子 五十嵐亮子
 相吉典子 坂本和子 飯田染子 井上多恵子
 三富正枝 山川明子 平間敦子 八木智恵子
 辰沼滋子 安彦潤子 相原梅子 鈴木トク子
 光畑清 長谷川不二恵 勝明子 松崎弘子
 小宮恵美子

（以上一六五名）



香葉会事務局の

担当者紹介



香葉会の事務は昨年まで短大庶務課にお願
いしておりましたが、五十六年十月より香葉
会独自に事務を取扱うことになり、事務担当
に、短家十回（三十六年）卒の淵上龍美さん
に来ていただいております。ご主人様と二人
のお嬢様のご理解をいただき、週三日香葉会
室で事務をとっていただいております。とっ
ても暖かくやさしい人柄に加え、仕事はテキ
パキと几帳面にこなして下さいます。また、
婦人之友の会に籍を置き、家庭生活につい
ての勉強をされています。

香葉会へのお問合せ、住所変更等は淵上さ
んへご連絡下さい。淵上さんは月・水・金曜
日の午前九時半より午後三時半まで勤務して
おられます。香葉会室も学校側のご協力をい
ただき、徐々に整ってまいりましたので、是
非一度お立寄り下さい。

香葉会室は一号館五階。電話番号は〇四五
一七八四―一四九一 内線二二六です。
どうぞよろしく願っています。

幹事長

編集後記

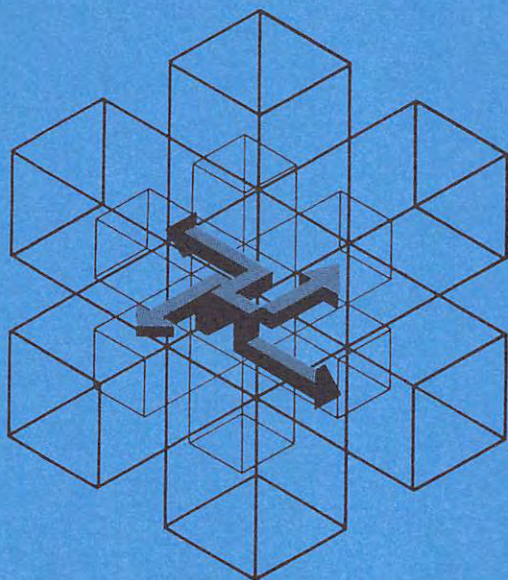
昨年十周年記念号をお届けしてから、早く
も一年が経ってしまいました。今年の十一号
はひとつのくぎりの後の新たな一歩としてが
んばってみました。

卒業生も一万人に近くなり、年代も幅広く
なりました。そんな中でどうしたら皆様に読
んでもらえるような誌面作りが出来るかと編
集委員一同頭を悩ませてきました。議論を重
ねて、校正を重ねて、少しずつ形になって来
た時のうれしさ。そして何とか出来あがった
後の、みんなに楽しく読んでいただけるだろ
うかと言う不安。そんな私たちを支えてく
れるのは皆様の声です。是非総会の出欠のお
葉書に一言添えて下さるようお待ちしております。

最後になりましたが、原稿をお寄せ下さった
方々に深く感謝いたします。



冠木啓子
佐藤庸子
堀越綱代
金田晴美
赤井千里
西沢澄子



後輩へ就職求人を！

本学卒業生の就職については、卒業生の実績が実を結び、毎年卒業予定者の2～3倍に達する求人があり、各科共百パーセントに近い成績をあげています。しかし、地方出身者に関しては、短大卒業生を受け入れる職場が少ないのです。そこで、高校卒業生に比較し、対人応待等に優れ、即、戦力化し易い短大卒業生、皆様の後輩採用を、皆様及び皆様のご主人に是非、ご検討いただきたいのです。

短大生ご採用のお話しがございましたら、下記学生課就職係迄、ご連絡いただきますように、お願い申し上げます。

〒236 横浜市金沢区六浦町4834 Tel (045) 784-1491 内226・258

関東学院女子短期大学学生課就職係

香葉第11号

昭和57年3月10日 印刷・発行

関東学院同窓会・香葉会

代表者 古城 房子

横浜市金沢区六浦町4834 郵便番号236

関東学院女子短期大学内

電話《横浜045》784-1491 (内線 216)

関東学院同窓会・香葉会誌